



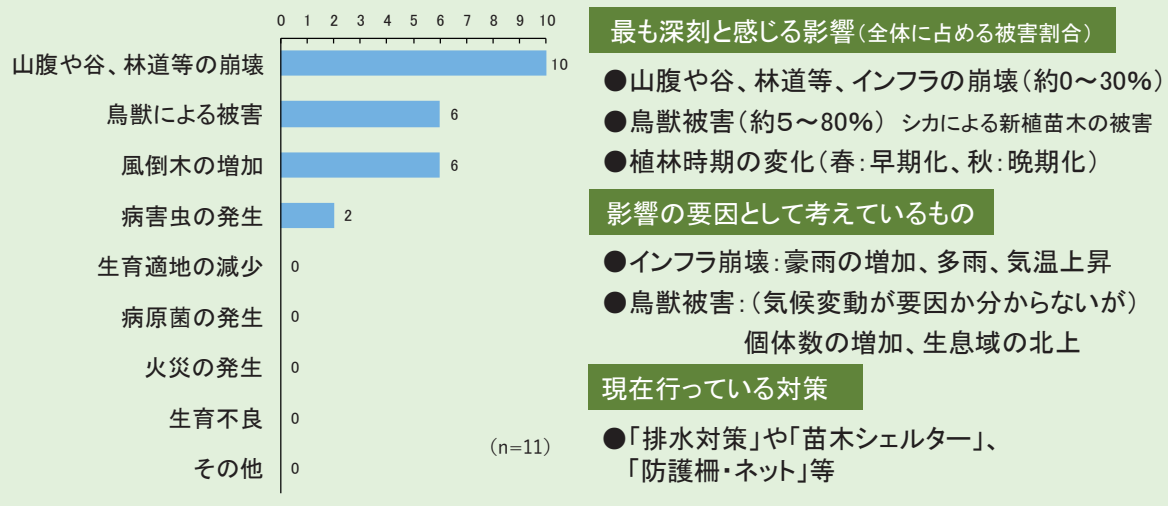
山腹・林道崩壊の様子
(出典：県林業政策課)

調査対象団体

地域	全域	東予			中予				南予		
調査対象	縣連	宇摩	越智今治	松山流域	伊予	砥部町	久万広域	内子町	大洲市	西予市	南予
アンケート	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ヒアリング※	●	●					●	●	●		●

※ 表の6組合の他、2法人に対してもヒアリングを実施

日常で感じている影響(被害・好影響)と対策



情報収集結果に対する妥当性確認・取り組むべき適応策

●:科学的妥当性が確認できたもの、▲:できなかったもの

深刻な影響	要因	妥当性確認		取り組むべき適応策
		論文等	有識者	
山腹や谷、林道等のインフラの崩壊	豪雨の増加 多雨	●	●	・排水対策 ・行政機関を中心とした治山事業の実施
鳥獣による被害	個体数の増加、生息域の拡大	●	—	・被害の物理的防除(防護柵、防護テープ、食害防止チューブ等) ・個体群の管理
	気温の上昇	▲		

まとめ

- 近年、局地的な豪雨等により全国各地で山地災害が発生しており、愛媛県においても、平成30年7月豪雨等により、甚大な被害が生じており、適応策として行政機関を中心としたさらなる治山事業の実施が求められる。また、有識者からも温暖化の進行に伴い災害リスクが大きくなることから、インフラ整備の徹底等について意見があった。
- 鳥獣被害の約7割を占めるニホンジカの生息域は全国的に拡大しており、愛媛県内でも中予・南予(北部)を中心に新たに生息が確認された地域がみられることから、適応策として、被害の物理的防除、個体群管理の両面からの対策が必要である。